

# 近畿周辺域方言の動向

——三重・徳島の場合——

鎌 田 良 二

本稿の骨子となる津市・徳島市の中学生の状況を示す数字、および大阪市の現在を示す数字は、次に記す「報告書」のものと重なることがあるが、本稿ではこれに「解釈」を施すものである。

「報告書」とは、『近畿周辺域方言の史的・社会言語学的研究』（文部省・課題番号〇二六一〇一九九（平成二、三、四年度科学研究費補助金・一般研究C、研究成果報告書・平成五年三月・研究代表者・鎌田良二）の中に「近畿・中国両方言の表現形式の地理的分布」として記したものである。

## 一 中学生の動向

近畿周辺域における京阪語の広がり、京阪語の勢力の拡大・縮少を見るため中学生の京阪語の使用状況を、A地域差と場面差、B地域差による使用度の二つとする。

特に中学生における使用度を中心としたのは、新しいことばを使う年令層。最近によることばの傾向を知るためのものである。

そして、これをもとにして、これから十年後、二十年後の状況を調査できるということの意味からでもある。

津市立南が丘中学校は平成二年創立で津市の南端、久居市に接する地点にあり、新しく開けた住宅地にある学校。徳島市立城西中学校は市の中心部にある学校、両校とも三年生の一クラス約四十名を対象とした。

筆者、私自身三重県で小学校六年間と旧制中学四年生の夏まで約十一年間、伊勢市に在住したが当時、私は「関西人」という意識であり、小学校の地理で「近畿二府五県」と教わった。三重県は「関西」であり、「近畿」と意識していたし、今もそう思っている。が、いつの間にか三重県は「東海」地方で、「東海人」だそうだ。ここに「言語意識」の問題も含めてこの三重県の中学生を対象とした。

徳島県は鳴門大橋のできるよりもっと古くから「阿波への路」の意味で、淡路（阿波路）との間に交通があった。そういう意味でも徳島市民の近畿語に対する「言語意識」をたずねたい。

#### A 地域差と場面差

場面差に関する項目。ことばは、話し相手によって変る。場面によって変る。目上か、目下か。公的か、私的かによって変ることは当然である。

場面差に関する項目として設定したのは次の三項である。

「いくら（値段）」「捨てる」「（雨が）降っているから」

場面設定には次の三場面である。「いくら（値段）」のみ（ ）内の内容で設定した。

- (1) ふつう（近所の店で）
  - (2) 大阪の人に対して（大阪の店で）
  - (3) 東京の人に対して（東京の店で）
- 質問文「いくら（値段）」の場合。

「近所の店で物の値段をたずねるとき、「いくら」と聞きますか、「なんぼ」と聞きますか」〈大阪の店で……〉〈東京の店で……〉

「いくら (値段)」

津市では男女ともイクラが一般的である。(以下、「一般的」とは、その土地で広く使われている形をいう) なお、津市の男子に五パーセントのナンボがあるが、一クラス四十名の五パーセントとは一名である。

徳島市はナンボを基準としているが、女子では「近所で」もナンボは少ない。そのナンボは「大阪で」はさらに減少し、「東京で」はゼロになっている。「近所で」は六五パーセントのナンボは、「大阪で」五〇パーセントになっている。大阪で少なくなっているという点では、福井市・敦賀市の場合とは異なる。<sup>(註)</sup> 福井・敦賀では「近所」よりも「大阪」では増加する。そして、「東京」では減少する。これは福井・敦賀ではナンボを大阪弁と考えているから大阪で増加するのである。このような傾向は徳島にはない。この点では徳島と洲本市は同じ傾向にある。

(注) 拙稿「福井・敦賀・洲本三市方言の動向」〔甲南女子大学研究紀要第二十七号〕平成三年

「捨てる」

「いらなくなった物をごみ箱に「捨てる」ことを、ふつうどのように言いますか」〈大阪の人に対して……〉〈東京の人に対して……〉

津市でホルが減少してきていることがわかる。

もともとこの地でホルであったことは、男子でホル・ホカスが四〇％であるが、女子はホカスはなくホルだけが三二％、東京ではさらに減る。これは近い将来ステルになることを示している。

一般的に、若い女性が新しい語形を取り入れる。中学生でも男子は古いホカスを保ち、女子は古いホカスはなくなり現在の一般形のホルだけを保っている。その女子が東京ではステルがふえていることは近い将来ステルになることを示している。

「(雨が) 降っているから」

△(雨が) 降っているから、行くのはやめろ」というとき、「降っているから」のところをふつうどのように言いますか」△大阪の人に対して……△東京の人に対して……

ここでは、「フッテイルカラ」「フッテルカラ」などは①「テイル+カラ」系のものとして一つにまとめた。同様の方法で、②「トル+カラ」系。③「トル+デ」、④「トル+サカイ」の四系が津市にあり、徳島市は、①「テイル+カラ」のほかに、②「トル+ケン」③「ヨル+ケン」、女子に④「ヨル+キニ」の形がある。なお、徳島市女子の「東京」は①②③の三系である。

津市ではトルデが一般的。理由助詞のサカイが「大阪」でふえるのは、これを大阪弁と考えているからであろう。徳島市は理由助詞ケン。ところが特に女子の「東京」はケンはごく少なく、テイルカラが多くなっているのは近い将来この形になろうとしていることがわかる。

#### B 地域差による使用度

△あなたが、ふだんお使いになっていることばについてお聞きます。次のようなことばをお使いになるかどうか。次の三つの中から選んで下さい。△

1 使う 2 自分は使わないが聞いたことはある 3 使わない (聞いたこともない)

〈表1〉

津	男	ふつう	○イクラ		ナンボ	
			○95		5	
			大阪で		5	
	女	ふつう	○95		5	
			大阪で		5	
			東京で		5	
徳 島	男	ふつう	○100		ナンボ	
			○100		65	
			大阪で		50	
	女	ふつう	○100		50	
			大阪で		10	
			東京で		10	
津	男	ふつう	○85		15	
			○90		10	
			○100		10	
	女	ふつう	○60		29	
			○60		11	
			○60		11	
	男	ふつう	○60		29	
			○60		11	
			○60		11	
	女	ふつう	○69		31	
			○69		31	
			○94		6	

徳 島	男	ふつう	○ステル	ホル	
			○35	65	
		大阪で	○35	50	15
		東京で	○75	20	5

女	ふつう	○50	50
	大阪で	○64	36
	東京で	○90	10

津	男	ふつう	テイルカラ	トルカラ	トルデ	トルサカイ
			31	15	49	5
		大阪で	31	15	44	10
		東京で	31	15	49	5

女	ふつう	35	11	49	5
	大阪で	35	11	49	5
	東京で	53	5	37	5

徳 島	男	ふつう	テイルカラ	トルケン	ヨルケン
			15	55	30
		大阪で	35	40	25
		東京で	70	10	20

女	ふつう	15	55	30	
					ヨルキニ
	大阪で	50	25	20	5
	東京で	85		10	5

ヨルキニ

## 1 使う 2 聞く 3 使わない

ここにあげた語は、一般に京阪語とみられているもので、前田勇著『大阪弁の研究』に出ているものである。オジャミ(お手玉)、ハンナリシタ(しとりし上品ではなやかなようす)は榎垣実著『京言葉』から補ったもので、(手袋を)ハク(はめる)、(手袋を)サス(はめる)、(傘を)キル(さす)、ニナウ(てんびん棒でかつぐ)、イナウ(同)、キバル(がんばる)、カントダキ(煮込みおでん)、ナンバ(とうもろこし)、チリメンジャコ(しらす)、サンパツヤ(床屋)、キツイ(きびしい)は本稿で補ったものである。

以下の〈表1〉にあげたナスビ、チリメンジャコの順は、本研究紀要第二七号、拙稿「福井、敦賀、洲本三市方言の動向——大阪弁の広がり——」としてあげた順と同じである。「福井、敦賀、洲本」の三市とくらべて見ていただきたいものであるが、大体「使う」が多いものの順である。ナスビからペケの五語は特に「使う」が多い。

サンパツヤは津市で、ペケは徳島市であまりのびていない。

サンパツヤは福井の男子で、ペケは洲本の女子でいずれも100パーセントになっている。

この五語は、「福井」のグループより「使う」率が少ない。

この五語のうちサンパツヤが女子に少ないことは当然として、津市の女子はナス(オナス)などになってきているのだろうか。チリメンジャコがシラスに、ナス、シラスが東部だから津市は福井、敦賀よりやや東部的となる。しかし、津市の男のナスビは九五パーセントで、五パーセントは一人のことである。

チリメンジャコは洲本で男女とも九五パーセントがチリメンジャコに対し、福島はこのように男子が六五パーセント、女子は四二パーセントにしかならないのは、シラス以外の他の言い方、ジャコなどがあるのだろうか。

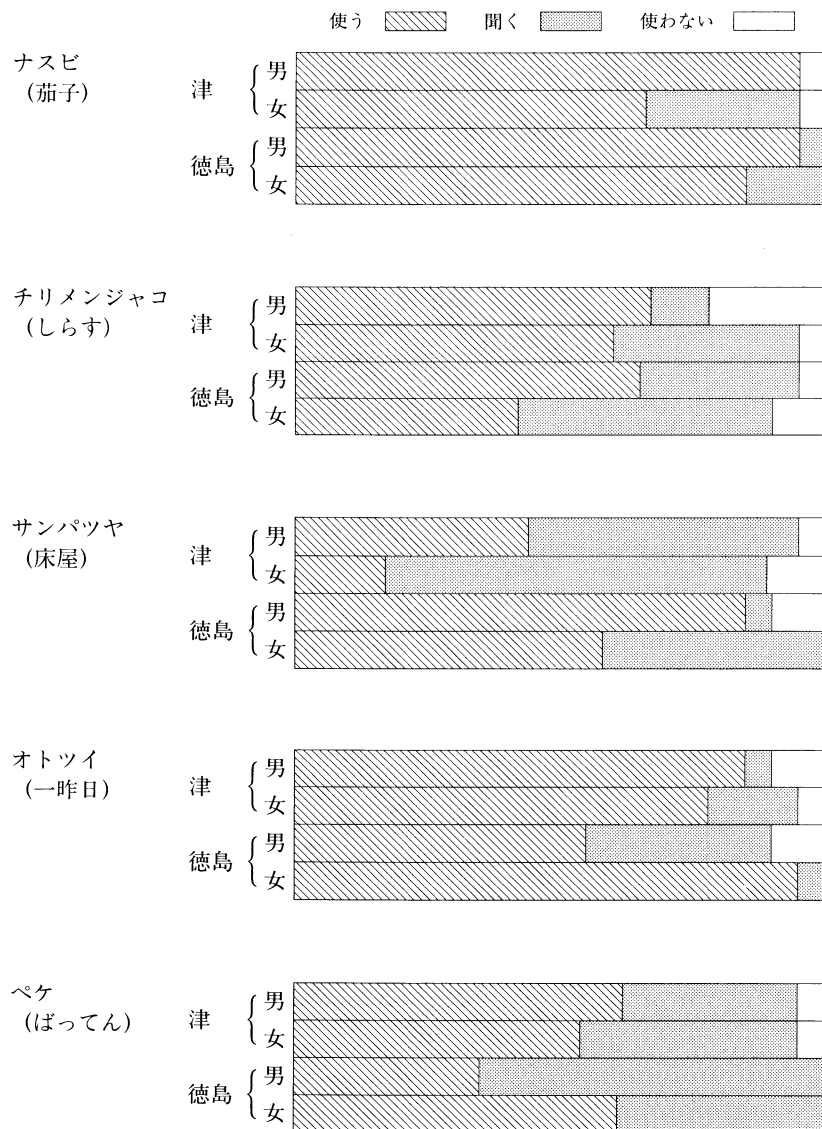
ナキミソからヨーケまでは福井、敦賀、洲本の三市にもかたよりがあったが、津市と徳島市でもかたよりがある。あるものは多く、あるものは少ないということは、この両市において関西弁として落着いたものとまだ落着いて

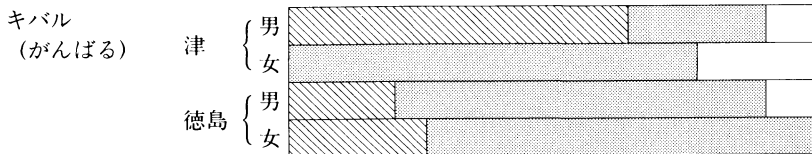
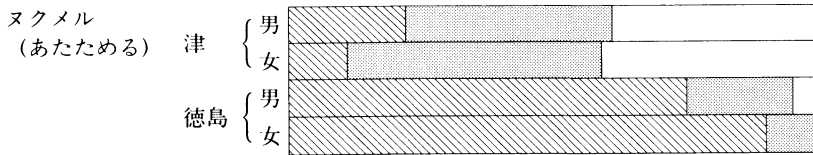
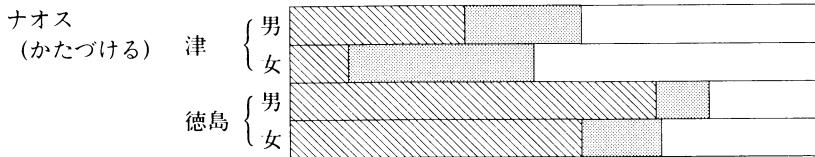
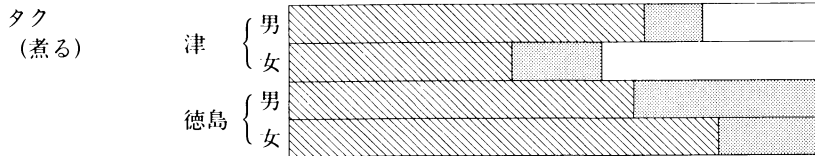
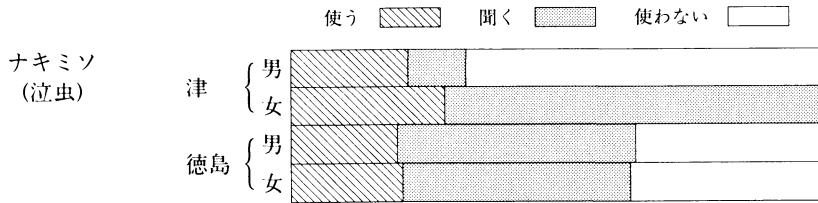
ないものがあるということだろう。

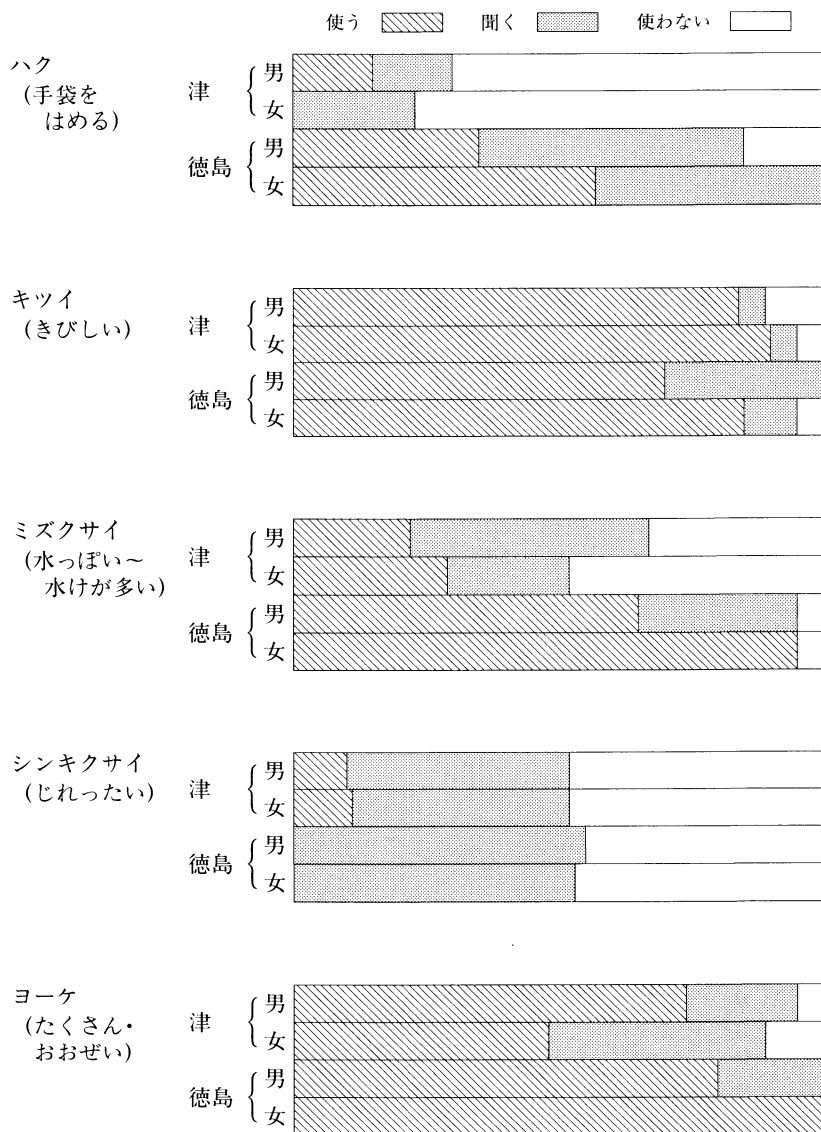
その点、(大根を)タクとナオス(かたづける)は洲本、徳島では落着いた関西弁。ナキミソ(泣虫)、ヌクメル(あたためる)、キバル(がんばる)は福井、敦賀。津では関西弁としては落着いていないものと見る。

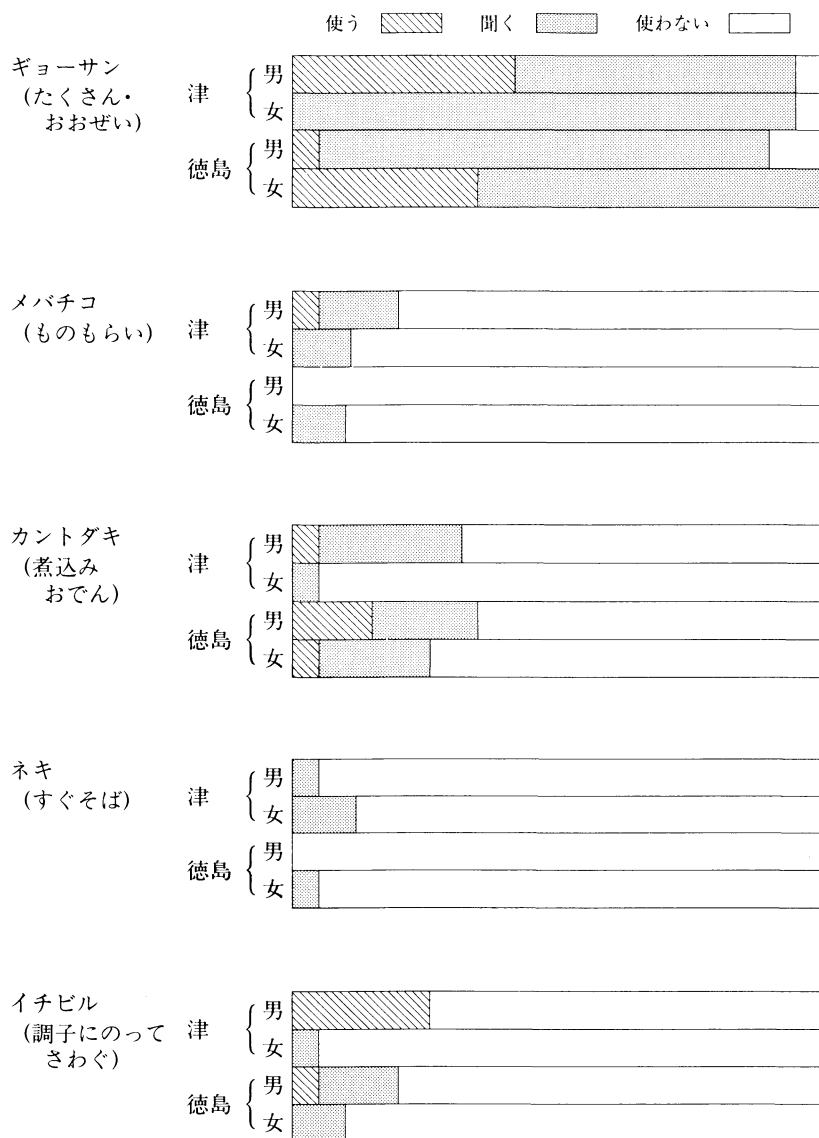


〈表2〉



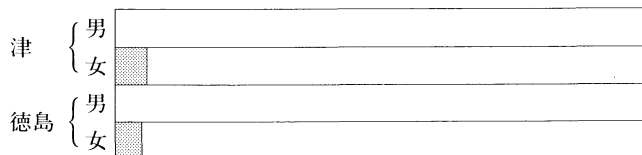




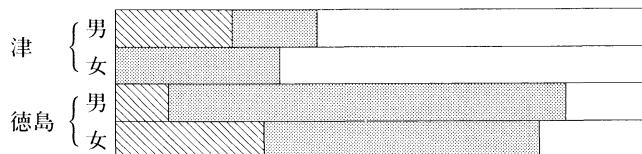


使う  聞く  使わない 

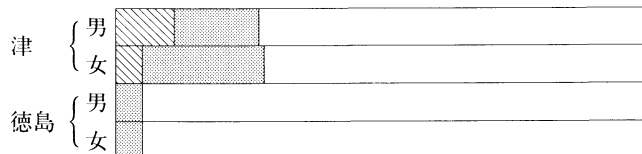
ヤツス  
(おしゃれを  
する)



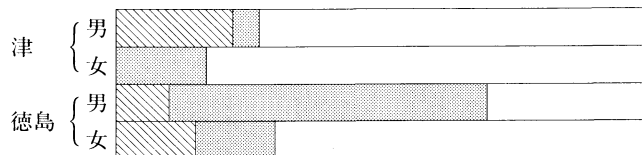
ケッタクソワルイ  
(いまいましい)



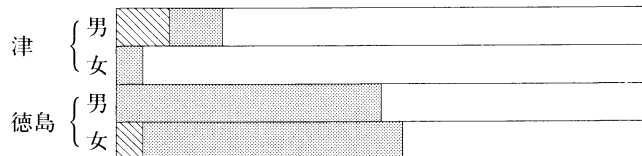
スコイ  
(ずるい)

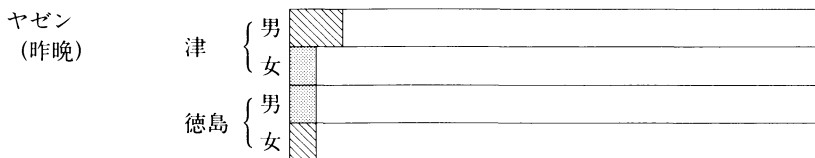
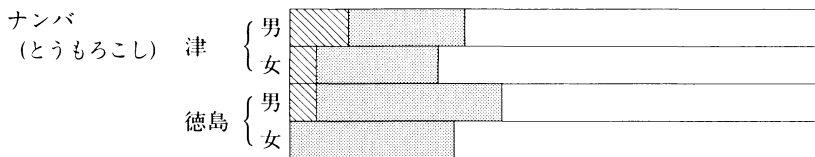
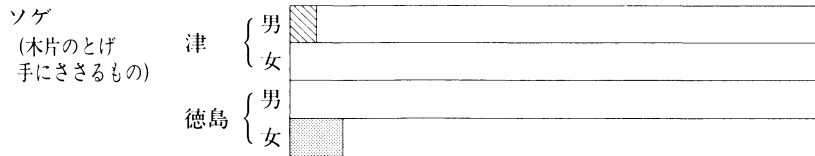
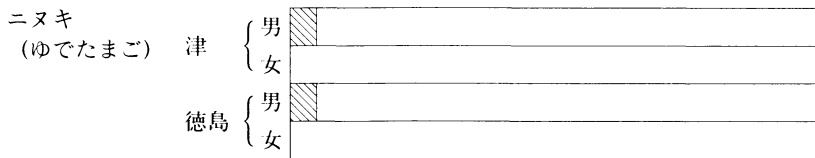
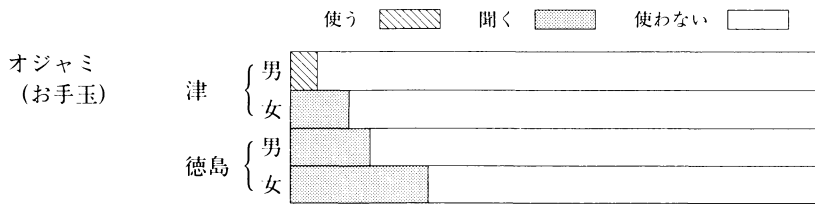


ワヤ  
(だめ  
むちゃくちゃ)



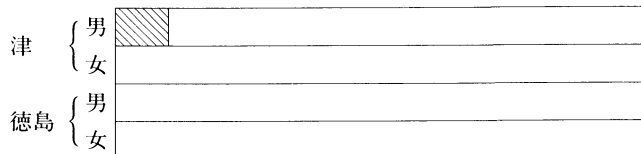
アンジョー  
(ちゃんと  
うまく)



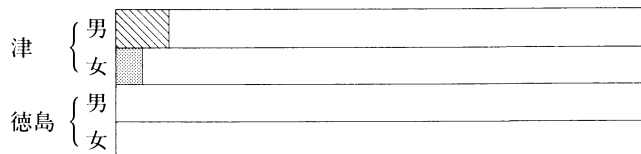


使う  聞く  使わない 

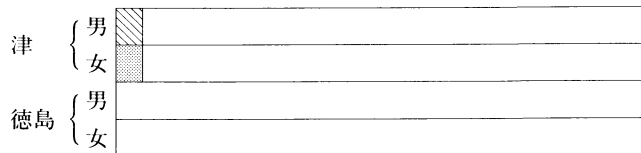
オムシ  
(味噌)



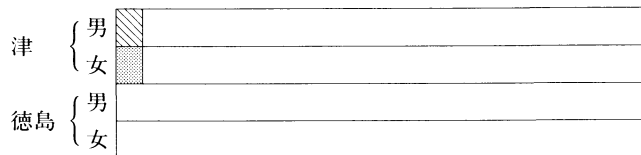
アモ  
(餅)



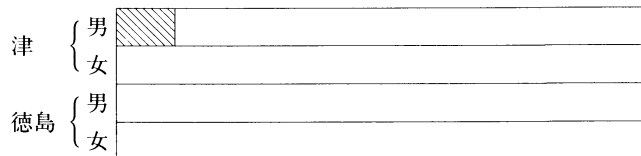
オトガイ  
(あご)

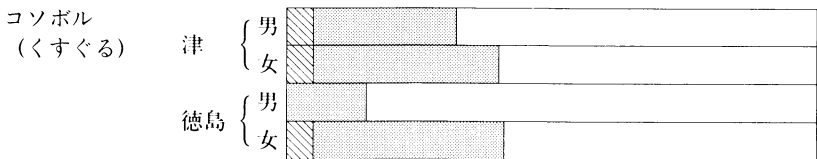
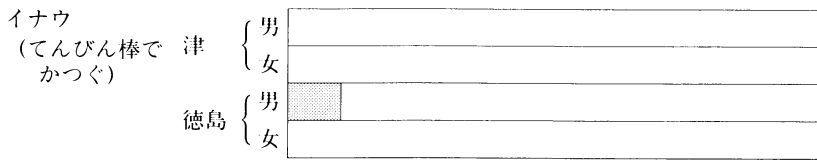
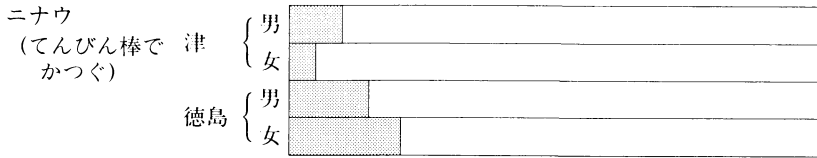
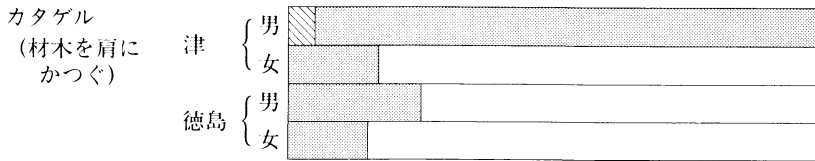
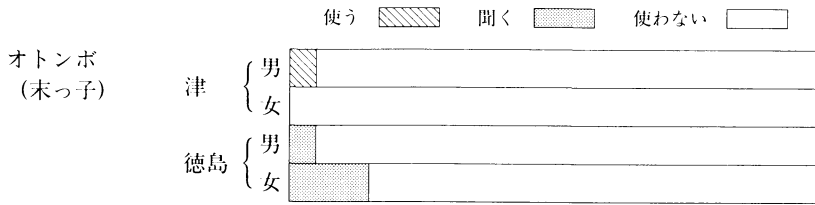


エーシ  
(お金持ち)

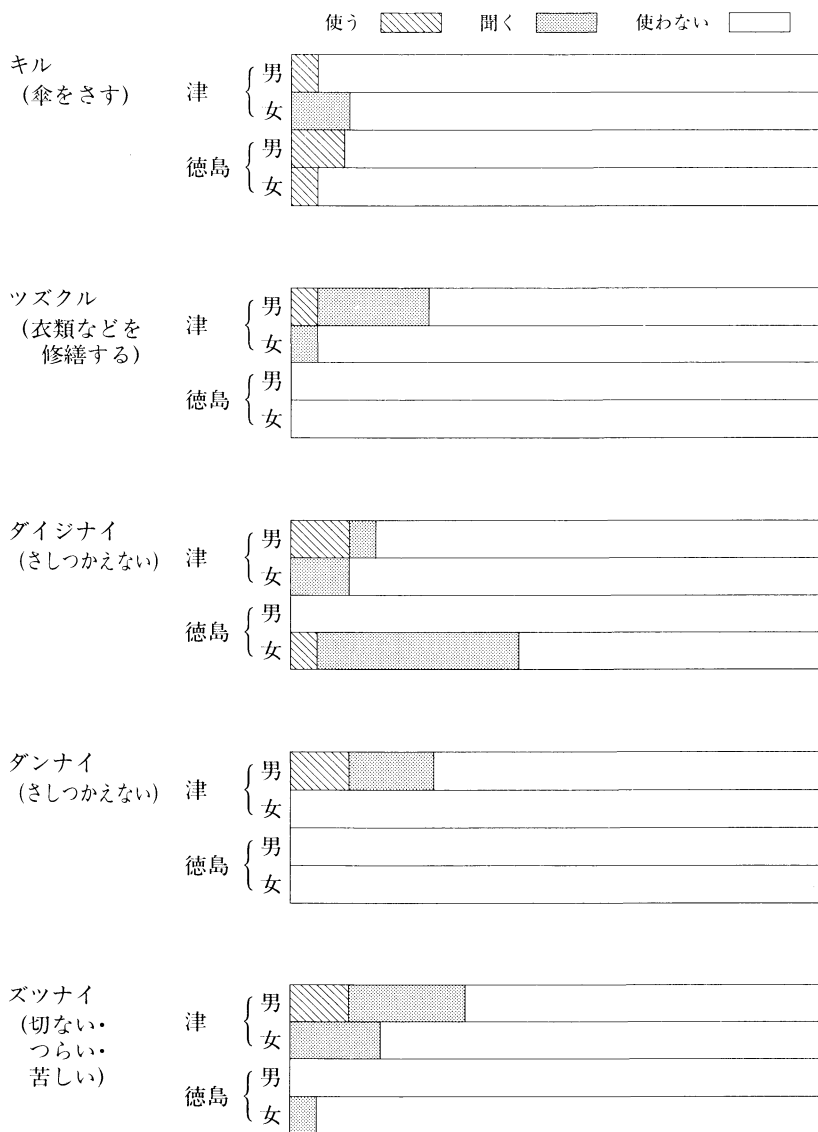


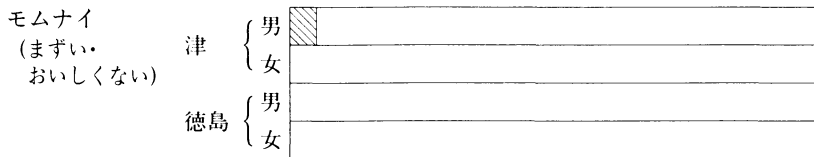
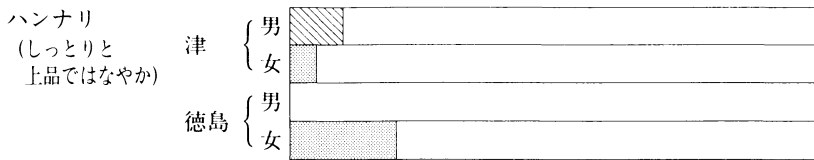
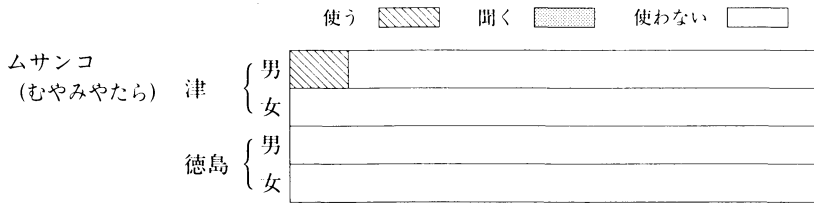
モンビ  
(祝日)











## 大阪市での年令差

大阪方言語彙といわれているものが大阪市内で、どのような年齢差が見られるか。

甲南女子大学学生（平成三年、国文学科三年次生）柴垣千恵、白瀬恵子が大阪市出身（一部府内出身者もある）で市内在住者（府内出身者も市内在住三〇年以上）男女計二五〇名について調査した結果を示す。

年令別は〈A〉一三才～一五才（中学生）、〈B〉一六才～二五才（高校・大学生が中心）、〈C〉三〇才、四〇才代、〈D〉五〇才～七〇才。各年代とも約六〇名ずつ。

調査法は、調査票に語を印刷。本稿の〈表2〉と同様に「使う」「聞く」「使わない」の方法で行ったが、「聞く」はごく僅か（一語に一～二名）であったので「使う」に入れた。

〈表3〉の数字は「使う」を百分率で示した。

※印は二通りの言い方をするものを含めたので合計が百分を越えるもの。

この〈表3〉から次のことが考えられる。

高年令層に多く低年令層に少ないものは、この語形はやがてなくなり、低年層に多いものになっていくだろうと考えられる。

「左利き」はギッチョからヒダリキキに、「じゃんけん」はインジャンからジャンケンへ、「南瓜」もナンキンからカボチャへなど。

この〈表3〉の語形のまとめ方として「額」のおデコ、デコ、デコチンなどはデコ類として一つにまとめるべきとも考えられる。が、

「甘藷」でイモはオイモサン（女性）を含むものであるが、「額」のおデコ、デコ、デコチンの数にそれぞれの年令

差が出ているように感じられたのでこのような分けた。

「たくあん」の「(オ) コーコ」では、「コーコ」が〈D〉で二〇%、「オコーコ」が同じ〈D〉で二〇%であったので、これをまとめて〈D〉を四〇%にした。

本稿を成すに当たっての調査は徳島市立城西中学校(平成三年)、津市立南が丘中学校(平成四年)、大阪市内調査(平成三年)のものである。

なお、徳島県、三重県とも県教育委員会の方針でこの種の調査はし難いものあったが三重県については本学杉浦茂夫教授の斡旋によるものである。記してここに謝意を表する。

調査結果の数字的处理は本研究室の水野暢子による。

＜表3＞

	語 形	A	B	C	D		語 形	A	B	C	D
① 左利き	ヒダリキキ	44	39	7	20	⑪ ゆで卵	ユデタマゴ	96	85	47	40
	ギ ッ チ ョ	56	61	93	80		ニ ヌ キ	4	15	47	60
② 腕	ワンパク	60	52	40	20	⑫ がんもどき	ユ ヌ キ	0	0	6	0
	ゴ ン タ	0	8	7	80		ガンモドキ	84	77	40	40
	ヤ ン チ ャ	40	40	53	0		ガ ン モ	16	20	13	0
③ 片足とび	カタアシトビ	32	※17	13	20	⑬ たくあん	ヒ ロ ー ス	0	3	47	60
	ケ ン ケ ン	64	85	87	80		タ ク ア ン	40	53	34	20
	ケ ン ト ビ	4	0	0	0		タ ク ワ ン	32	10	13	0
④ お手玉	オテダマ	100	93	※40	50	⑭ 煮 ぼ し	(オ) コーコ	8	16	53	40
	オ ジャ ミ	0	7	70	50		コ ン コ	0	5	0	20
⑤ じゃんけん	ジャンケン	32	44	40	0		オ シ ン コ	0	9	0	0
	インジャン	64	47	60	100	⑮ 鶏 肉	ツ ケ モ ノ	20	7	0	20
	ジャイケン	4	9	0	0		ニ ボ シ	92	72	※33	20
⑥ びり	ビ リ	※24	※19	7	20		ジ ャ コ	8	15	40	20
	ベ ッ タ (コ)	48	33	48	60	⑯ 甘 蒨	ダ シ ジャ コ	0	6	20	60
	ベ ベ	20	12	21	20		マ ル ボ シ	0	4	0	0
	ド ン ベ	4	9	8	0		イ リ コ	0	3	13	0
	ド ン ケ ツ	8	10	8	0	⑰ とうがらし	ト リ ニ ク	88	59	※20	40
	ケ ツ	0	20	8	0		カ シ ワ	12	41	67	60
⑦ 額(ひたい)	ヒ タ イ	16	14	20	0		ケ イ ニ ク	0	0	7	0
	オ デ コ	56	53	40	※100	⑱ 春 菊	チ キ ン	0	0	7	0
	デ コ	28	33	40	0		サ ツ マ イ モ	※97	※84	93	100
	デ コ チ ン	0	0	0	20		イ モ	6	17	7	0
⑧ 灸	オ キ ュ ー	70	63	20	0	⑲ 南 瓜	オ サ ツ	0	1	0	0
	ヤ イ ト	30	37	80	100		ト ー ガ ラ シ	75	66	20	20
⑨ 隅	ス ミ ッ コ	※48	37	46	40		ト ン ガ ラ シ	25	34	80	80
	ハ シ ッ コ	44	32	27	60	⑳ 蝸 牛	シュンギク	※56	70	※32	0
	ハ シ	12	27	20	0		キ ク ナ	48	30	72	100
	カ ド	0	1	7	0		ナ ン キ ン	0	44	67	80
	ス ミ	0	3	0	0		カ ボ チ ャ	100	56	33	20
⑩ おしめ	オ シ メ	52	※64	60	40		カ タ ツ ム リ	※76	48	50	40
	オ ム ツ	36	34	40	60		デンデンムシ	28	52	50	60
	(商品名)	12	5	0	0						